

お 名 前	性 別	卒業年	小学校	現 住 所
岡本 <small>ふさこ</small> 房子	女 性	昭 3 2 年 (1957)	富岡小	名古屋市

「 遠 足 」

(5年生当時の作文)

昭和30年発行文集「つどい」

新城町南部国語研究会発行より転載

今日はまちにまった遠足です。朝の出発が7時なので、いそいで学校へ行った。出発の時間になってもまだ4, 5人来なかった。2, 3分待っているとみんな集まったので出発することにした。みんなうれしそうにハイキングの歌を歌ったりして、雨生山をこえて三ヶ日の町に入った時、もう向こうの方に海がかすんでキラキラ光っているのが見えた。もうじきに三ヶ日と思っていたら、まだまだ1キロのようもあると言ったので、歩くのがいやになった。

それに学校を出発するのがおそかったので、1回も休まずに三ヶ日の駅まで行った。そしてまだどれくらいあるかしらと思っていたら、みんなが駅のだんだんを登っていったので、なんだかなと思っていたら、だれかが、「せとのつりばしが見える。」と言ったので私も急いで登っていったら、遠くの方にかすんでせとのつり橋が見えた。そのうちに先生のふえが鳴ったので、2列にならんで乗り場の方に行って少し待っていたらジーゼルカーが来た。満員で1りょうだけだ。身動きできないほどつめこまれた。次の駅で私たちは降り、また30分ぐらい歩いてまちかねていたせとに着いた。絵のようなつり橋が私たちを待っていた。私たちは水の近くの岩の方へ行っておべんとうを食べた。さおを持ってきた子は、ハゼなどの魚をつった。女の子はさおをもっていかないのを見ていたが、あまりおもしろかったので浅い所でドンコをとらましたり、かきを取ったりしていた子もあつた。私は手でドンコをとらましていたら、重子さんが「はりがあつた。」と言つたので、かしてもらつてかわりばんこにハゼやドンコをつつた。